

濃尾地震



1891年(明治24年)

日本最大級の地震で、地震計の針も振りきれてしまったほどでした。地割れが何回もおこり、地面から水と砂がふきだして、おぼれたりする人もいました。

いつおこるかわからない災害にそなえ、昔おきた災害をふりかえり、ぼくたちにできることを考えてみよう!

伊勢湾台風



1959年(昭和34年)

愛知県の歴史でもっとも大きな被害のあった災害で、3,000人をこえる死者・行方不明者がでました。とても強い台風が近づいたのがちょうど満潮と重なったため、名古屋港の貯木場にあった直径1m、重さ6~7トンの材木が流され、住たく地をおそいました。また、100日間も水につかったままのところもありました。

東海豪雨



2000年(平成12年)

台風14号による集中豪雨で伊勢湾台風から41年ぶりの大水害になりました。堤防がくずれたり、川があふれたりして、6万戸以上の家が水につかりました。阪神・淡路大震災のときからさかんになった「防災ボランティア」の人たちが全国からやってきて、大活やくしました。

写真提供 中日新聞社

愛知万博でも注目された愛知県民のボランティアの気持ちを、災害の現場でも生かせるといいね。



ボランティアに参加した人の話

1人やお年よりだけではできないことでも、多くのボランティアの人が手伝いをして、災害の現場でも生かせるといいね。

被災された方の話

遠いところからかけつけてくださって、涙がでるほどうれしかったです。いやな顔ひとつせず、てきぱきとかたづけていくように、心からはげまされました。

あいちの地震・災害のことなら、「地震災害に備えて!」にのっているから調べてみよう。

[http://www.pref.aichi.jp/bousai/zisin\\_saigai/](http://www.pref.aichi.jp/bousai/zisin_saigai/)